

怪雄

雑飼養法

奉存候に付此段奉伺候以上十二月朔日に至り内獻上に成る、

〔續日本後紀十七〕承和十四年三月己酉放柵雑於北野高飛遠去、

〔百千鳥下〕尾長雑子 餌かい

前同○菜、玄米、

大きさ高麗きじより大きく尾長し今ふつていなるものにてわたらす子もなすべし追而考べし、當時なかく巣のところへゆかず一向なし、それゆへにりやすくす、

白雑子 餌かい 前同

大きさ高麗きじにおなじやうかうらいのゑろきものなり耳もあり本しろ雑子すくなし、眞白のうち尾のかたへかゝりたる蓑毛のはしそこし黃にかばいろなるを本性のしろ雑子とす、是は時度だんく常の雑子になるものにてたのみなし大かたはとやにてほん毛へもどる物なり、本性の白雑子はすくなし子もすい分出來る也、飼かた錦鶏におなじ、

高麗雑子 餌かい 前同

大きさ和の雑子に少し大ぶり頭黒く茶色の毛交り光あり脊も常の雑子のごとく胸黒くむらさきいろに光脇腹にかき色の毛あり毛の末に黒き玉のふ有尾常の雑子のとふり見事成首輪切ざるを上とす眼もふどう目をよしとす、かし目はあし、雌雄ともに眼を吟味すべし、玉子は廿四日にて開子は錦鶏より又飼立にくき物なり筋つまる病出て十羽に五羽は落たがる物にてかいにくし中子に成まで上籠にて飼立るがよし庭籠へ早く放す時は怪我多し、其うへ上籠にて久しく飼ふ時は能馴れてよし、うづらより大きく成たる頃庭籠へ放すべし子のうち首の上より脊へかけて赤く照出るは女鳥也、赤らけたるは男鳥也、總たい飼方錦鶏におなじ、其年の内とやを上見事に成る物也、

〔飼鳥必用中〕高麗雑子